

EDMを作る

もくじ

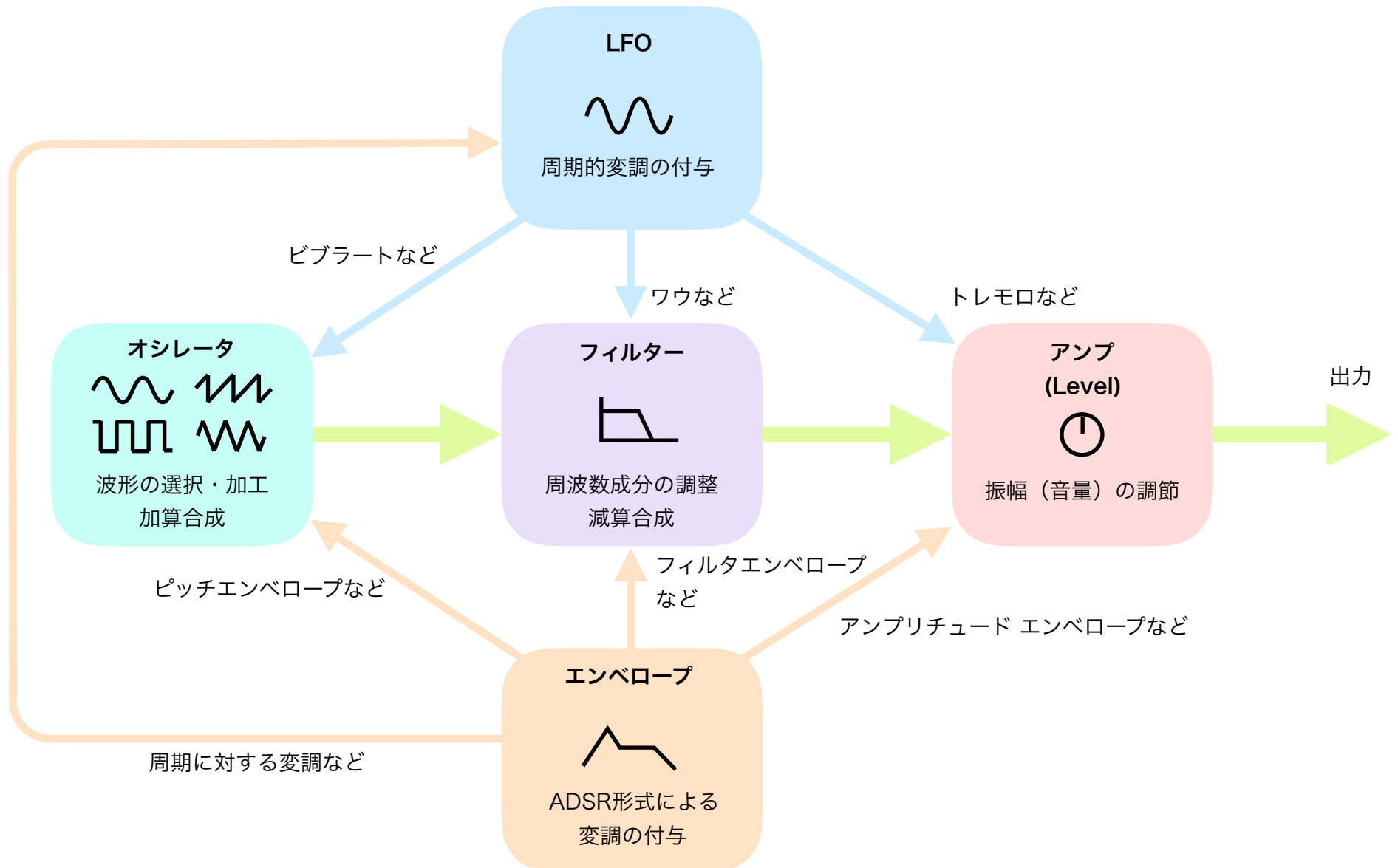
1. シンセサイザーの基礎知識
2. オシレーター
3. フィルター
4. エンベロープ
5. モジュレーション ～基礎～
6. モジュレーション ～応用～
7. **シンセの構造**
8. ベース
9. ブラック
10. リード
11. パッド
12. シーケンシャルとアルペジオ
13. キック
14. スネア
15. ハイハット
16. リズムループ
17. アレンジ

シンセサイザーの基本操作⑥

『シンセの構造』

1. シンセサイザーの構造のおさらい
2. 様々なシンセ
3. Serumの補足説明
4. まとめ

1. シンセサイザーの構造のおさらい



2. 様々なシンセ

1. MASSIVE



2. Sylenth1



3. Analog



4. Retro Synth



3. Serumの補足説明



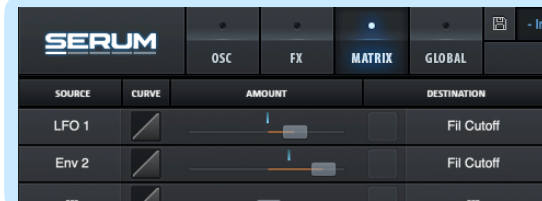
【FX】

ここでエフェクターラック画面に切り替えることができます。

様々なエフェクターを追加することができます。

それぞれのエフェクターのパラメータにもモジュレーションをかけることができます。

エフェクトはマスターにかけられます。



一つのパラメータに、複数のモジュレータをかけることも可能です。その場合、数値の合計が反映されます。



このポイントで[右クリック]を押すことによってメニューが開きます。そのメニューから

【Set Start Point here】

という項目を選択することによって、波形が始まる位置(位相)をずらすことができる。

【RISE】

LFOのレベルを徐々に上げていくことができる。

【DELAY】

LFOが効き始めるタイミングを後ろにずらすことができる。

【SMOOTH】

グラフの角を落としてなめらかな動きにすることができる。

【LFO】の画面上で、[シフトキー]を押しながら[左クリック]でグリッドに沿ったグラフを直接描くことができます。

左下の【GRID】で細かさを調節することができます。

4. まとめ

ダンスミュージックで使われているシンセサイザーは減算合成のシンセサイザーを使用することが多いです。

機種によってそれぞれ見た目が異なりますが、この講座で学んできたことを使って、このパラメータが何に相当しているのか？ということに着目していけば、あらゆるシンセを使いこなすことができます。

これまでに学んだことをしっかりと復習し、確実にシンセを使いこなせるように訓練していきましょう。

宿題

Serumを使って、参考音源と同じ音を制作し、提出する。

ルール

1. これまでに学んだ全てのことを使用して再現すること。
2. 限界までクオリティーにこだわること。
3. 提出の際はmp3で書き出し、フォルダに入れてzipに圧縮すること。
4. ファイル名は全て英語で「synth-kadai_7-1_sugimoto.mp3」のようにつける。
5. [ギガファイル便](#)などのストレージサービスを利用してアップロードし、ダウンロードリンクをメッセージかE-mailで送ってください。